



(令和2年3月号)

○歴史往来第34号への返信集

○28日 クマモト

いつも編集と送信ありがとうございます。

このところ先日の歴史講演会に行きそびれて以来、その後は、コロナで人ごみに行くのが鬱陶しくなり、先週の土曜日の「戊辰戦争」の講演もパスしました。明日予定の「鹿児島城の御楼門」の講演会はずいぶん中止になりました。

私たちの「おじいさん合唱団」？ は3月2日、桜ヶ丘養護学校、3月10日、花野小学校でスクール・コンサートを予定していましたが、いずれも中止になりました。団員自体が老齢化していますので、3月1日、3月8日の練習も中止になりました。止むをえないことだろうと思います。

そういうことで、世間は「新型コロナウイルス」で騒然ではなく、鳴りを潜めるような状況になっています。この気分を吹き飛ばそうと、歳も忘れて買い物もあったので、鹿児島中央駅や天文館に夫婦で出かけましたが、人出が極端に少なく感じました。

あの史上最長の大宰相がいる限り、ロクなことをないようです。

○いつも気がけて頂き感謝です。

80歳代 体力の(頭も)衰えること やむをえません。

おお 元気のようなと皆様の近況を知るだけでも幸せを感じます。^^

ありがとうございました。 長崎 諫早 森永

○なかなか立派なものだと感心しました。

余計なことかもしれませんが文字、特に長くなると黒字の方が読みやすいようです。

中国人養父母を祀るということも素晴らしいことだと感じました。

本当によいことをなさっておいでです。

中国から鹿児島大学に留学している3名の留学生にも酸化してもらいました。

「酸化」→「参加」株式会社エムエフアイ 西山 和宏

○コロナウイルスで大変なさわぎです今日、子供たちは、学校からたくさんの荷物を持ち帰る様子をあちこちで見かけました学年替わりで教室も変わるための引っ越しの準備ですもう1日、早く言ってくれば、持ち帰りの荷物は半分ですんだのに。 . . .

習近平の来日ご接待の中止 or 延期の決定を先延ばしているために、やがて現場の努力は水泡に帰すことになるでしょう。

オリンピックは中止も延期も考えない前向きな考えのようです。

それいけドンドンで、状況判断ができない権力者が日本をひどい目に合わせたのはつい最近のことです。

その繰り返し、再現が行われています。

尾辻秀久さんが、今、厚生大臣であったら胡麻摺り大臣とは違った手を打ったであろうと

ところで、インフルエンザは、恐ろしいもののようです。

高齢者のみなさん、コロナウイルスの前にインフルエンザに注意しましょう。

2月26日、CDC（疾病管理予防センター）の発表では、

今シーズン、インフルエンザ疾病約2900万人、入院者280,000人、死者16,000人。

現在のインフルエンザ・シーズンは、特に子供と若者に悪性で、近年、彼らの罹病率は高い状態が続いている。

子供のインフルエンザ関連死者は105人。沈静化に向かっているそうです。

インフルエンザ死者は、日本では毎年約3,000人だそうです。

この数は、医師が死因をインフルエンザと認めたものだけでインフルエンザで入院して肺炎で亡くなった人は含まれていません。西山 和宏

○隈元さん、大石さん、西山さん

八期会 寄稿者 上記 三人の方々が 頑張っておられます。

西山さんの USA マーケットレポート 凄いです。

隈元さん 大宰相・・・まったく 同感 最近 独裁者みたいな行動、発言多くなっているようです。

話しは変わりますが このままだと 日本丸は どうなっていくのでしょうか？ 息子、孫の時代が 気がかりです。

今になって 考えると 私らの時代 右上がりで 真面目に 仕事していれば 将来像が描けてたような気がします。

今は たいへんで 全く 未来が 想像できない 世の中となって来ています。 大宰相？ 早く 辞めてもらいたいです。が思っていますが残念なことに 次世代を 日本を背負って 期待できる人材がないということにあります。

経済界も 世のため、人のためという考えで政府の諮問で 活躍されておられる方も、 ご意見番みたいな方も 皆無です。

昔の桜田武経団連会長、土光敏夫会長など 立派な方が おられました。 東レ出身の 榊原定征会長あたりから 政府に寄り添った動きが目立つようになり、ただし、これは 前の会長があまりにも 政府との関係が良くなった反動？とか

政府の諮問委員の方々にも 自分の会社に 我田引水 利益誘導を図るような方々も たくさん 出てきました。例えば、オリックス 宮内さん人材紹介業 会長（小泉政権で大臣された）竹中平蔵氏 楽天の会長あたりも 同じようなことをされているように見受けられます。

ほんとに 日本の将来のため どうすべきか どうあるべきか という人が おられないのが残念です。

おられるのですが、 反対意見を述べられるような 方々 通産省出身 古賀さんみたいに マスコミに干されてしまいます。

他にも たくさん おられると思います。反対の意見を持った人は 重用されていないのが実情です。（幼少のころからこの傾向あった人の様で成城大学の同窓の方も いつも仲間だけで つるんでいた。今の内閣も 同じような傾向あり、仲間内閣と言われています。）

まあ 年を取って 愚痴みたいなことばかり 言っていたら 子供から 見放されてしまいます。改心しましょう！ このあたりでやめます。

だけど 今の大宰相は ひどいです。「無知」で「無恥」なバカ者が権力という妖力を振り回せば、このような惨状を呈するのだという格好の歴史教材にもなりそうと評論する人もいます。

次期 検事総長の人事も 国家公務員の法律の解釈を変えてでも 自分らの好き勝手な 公務員の人事を行うといった なんでもあり独裁者の様相を呈してきています。

コロナウィルス、今年は インフルエンザ B 型が 流行っているようです。 お互いに 健康に留意して 過ごしましょう！

木場 祥雄

●歴史通信担当 大石よりみなさんへ。



○3月6日(金) テレビはもちろん新聞紙面も、コロナコロナ一色、日本列島JPの中で赤色に塗られていない数少ない県・鹿児島。先日、隈元くんのブログ『あわや新型コロナウイルス』さぞ怖かったことでしょう。ぜひ一読を...

やっと見つけた歴史記事、薩摩(郷土史)ではなかったけど島津を苛めた権力者たちの動向も興味深いものがあります。西山先生や隈元氏の(隠れたうんちく)を聴きたい。

以下クマタツ日記より。

○連日の「新型コロナウイルス」騒動には恐怖を感じている。

九州でも福岡に続き、熊本でも患者発生！

もう隣の県までできてしまった。

新幹線ではアツという時間で行き来が出来る距離になってしまった今、鹿児島でもいつ発生してもおかしくないような状況ではある。

サンデー毎日の私には取り急ぎ街に出る用事もないのだが、毎週日曜日のコーラスの練習だけは鹿児島市の中心街に出かけることになる。街のど真ん中に練習会場があるからだ。

昨日もそうだった。妻にマスク着用を命じられて素直に従って、マスク着用でバスに乗って出かけた。

日頃着けられないマスクをしたせいか、いつもより息が上がるような、息苦しいような気分であった。

バスが中心街・天文館に到着。降りて5分くらい歩くのだが、日頃は気にもしないマスク着用者に目が向く。ちょっと見たところでは着用率は5分の1くらいか。鹿児島ではまだまだ切迫感を感じていない人が多いのか。老若男女のカップルを見ても一人は着用、もう一人は着用せずという組も多い。

日頃は、気にもしなかったことを考えたり、見たりしたせいか、息苦しさはますます募ってきた。

そして、練習会場着。ここでもマスク着用者は数えるほどである。マスクを外して練習開始。ところがその辺から少し寒気もし始めた。練習の前半が終わる頃には、少し震えも来るような感じになってきた。

その頃から、練習の前半が終わるハーフタイムの休憩時間には家に帰ろうと思いはじめた。

やっと前半終了。いつものように会長からの伝達事項が終わって5分くらいの休憩時間になって、同じパートの責任者や周辺のメンバーに「ちょっと用事があるから早退します」と皆に心配をかけないようにして練習会場を抜け出した。

そこから商店街を抜けてバス停へ歩いたのだが、寒気が一気に押し寄せ、バス停でも待っている10分くらいの間、小刻みに震えていた。足を動かしたりして誤魔化したり、マスクもしていたので周りの人にも不思議がられずに済んだと思う。家に帰ると旦那のいつもより1時間くらい早いご帰館に妻もびっくりして「どうしたの?」とのたまう。私「カクカクシカジカ」。

ということで、午後6時前にはベッドに入った。震えはすぐに収まったが、少し熱が出てきた。

この時、頭の中は、毎日刷り込まれた「新型コロナウイルス」のことでいっぱいである。体調の悪い時はロクなことは考えないもので「新型だったらどうしよう」という思いが去来する。

しかし、いつしか眠りに落ちたようで2時間くらいして目覚めたが、汗ビッシヨリ！ 全てを着替えてしばらく休み、30分くらいして居間に降りた。この時はだいぶ気分も良くなっていたので食事を摂る。無理していつもの3分の2くらい

食べる。熱を計るが、体温計が古いのか、何回計っても37度1分くらいしか測定されない。

妻の触診では「38度くらいはあるよねえ」という。

それから、一夜、その後、発熱もなく、今朝は先ず先ずの状態が目覚めた。

今、思うと昔やった「熱中症」と同じような経過をたどったようだ。ホッ！

かくして、私の「新型コロナウイルス」騒動は終幕を迎えた。でも、これからも気をつけよう。

〇〇今、擬似コロナ体験記 読みました。 大石

やはり今熱が出るとびっくりですね。

大事に至らずに何よりでした。鹿児島に発症しないのが不思議ですね。

知事の顔を見ないで済んでホッとしています。

〇さて、八期会員外の方で年齢も私たちに近く、東京で青年期を過ごし、その後故郷鹿児島に帰られ、おまけに鹿児島の歴史に深い思いを寄せ、戦国期の島津家に故郷を同じとする人物・本田哲郎さんを八期歴史仲間に入っていたき一緒に郷土史を学びたいと思います。 推薦者:隈元・大石

以下、2月号の「八期歴史往来 34号」への返信より2部を(大石が独断で)抜粋しました。

〇拝啓。 令和2年3月8日 本だ哲郎

3月に入り、南国 鹿児島も春の息吹が顕著に表れるようになりました。自宅の前庭の芝生も新芽がではじめました。もうすぐ、自分が大好きな「萌えいずる春」となるでしょう。

古市様、大石様、隈元様のお三方に、同じ文面でお送りする事をお許しください。

〇(略あり)・・・やはり、歴史とは必然性を帯びており、過つての法学徒として、どうしても、三段論法的な発想を歴史を理解するに、この事を念頭に考慮することが必要と感じています。

とかく歴史家や歴史学者というかご専門の著名な方々は、ご自分が専門的に探査や調査をされたことでの「資料」などを取り上げて、ご自身の「持論」をそれがまさに「真実である」と強調される傾向があります。

そこで、小生が何時も申し上げている、歴史資料として、「一時資料」「二次資料」の鼎を一次資料だから、それが「正解である」とは言いきれない側面が存在するという事です。

即ち、一般的にはその資料は「日記」「随行記」「古文書」「顛末書」などの形式で残されているケースが多いですね?! その資料を誰が、何時、どのような立場で残したか?、また後世の方々がどのような評価を与えているか、さらに自分はこの時、その渦中の中の当事者であったなら、どのような行動をとるだろうかなどを良く勘案した上で、この史実をどのように「歴史」として位置付けられるかを最後に判断すべきと思われます。

どうも、勝手な持論を展開しているようですが、皆様のご意見が聴けられると嬉しいです。

古市様が、大久保利通公の足跡を安積まで行かれて探査されたとか、敬服しました。確かに、我々鹿児島在住の者にとっては、西郷と大久保を並列的にみると、どうしても西郷崇拜になります。

自分も在京時代からは、島津家宗本家や分家の活躍等よりも明治維新という画期的な事業をやり遂げた偶像の象徴として「西郷は郷土の偉人である」という認識を持って、ある程度の本なども読んでいました。

その際、やはり大久保利通公に関しては、どうしても、最後の場面で西郷を見放したという見解で、地元の鹿児島ではその「雰囲気」がありましたね?!その証拠に、大久保利通の銅像(高見橋)も我々が学生時代はなかったですね?!

— 1 —

ところが冷静に、あの明治維新という大きな変革期における日本国としての行末を見る時、やはり、大久保利通公の宰相として国是を握る立場の人としては、スゴイ逸材であったということで理解できます。

それが、鹿児島でも再認識されて、今や大久保公の「研修会」なども鹿児島でも開催されるほどになっています。

さらに、古市様が南日本新聞に大久保公のことを投稿された原稿を拝見しました。まさに、このような大久保公の功績をもっと鹿児島では強調されるべきと思われます。

投稿されたのが、昨年9月ですので、いまでは、「没扱い」になっているのですが、残念です。

○古市様・隈元様・大石様へ

本田哲郎

過つての仕事の現役の頃とは、在京時代40数年間、ご多分に漏れず皆さんも同じでありましたでしょうが、一般の会社人間として、職務と自分の家族の生活を守るだけの人生でした。つまり、生活に追われた懸命な会社人としての脇目も降らずのサラリーマン生活でした。

帰郷して、**自分のふるさとが昔々、戦国時代に活躍した先遣がいたということ**で、**郷土史を勉強したいと始めたこと**でした。たまたま、先にお話ししましたように、当地には島津家の分家としての「外城制度」での武士社会があり、その社会教育としての存在であった「精研舎」という郷中教育の精神の流れを汲む「永吉南郷会」という歴史ボランティア団体があり、そこにすぐ入会してから、三木先生などの指導を受けながら、郷土史に目覚めた次第です。したがって、たった20年の「にわか耳学問」とも言うべき輩なのです。

ただ、身体も、若い時からの不摂生が続き、肥満が原因の疾患（糖尿病、脊柱管狭窄症など）を発病して以来、十分に歩くことすら不可能になり、長く務めた永吉南郷会の会長職などの役員職も辞任して、今は、史跡を訪れる歴者愛好家の方々への「語り部」として努めているだけです。

— 3 —

身体は、さらに最近「人工透析」の恐れ（ステージ4）となり、昨年暮れには専門の「腎臓内科」がある鹿児島市立病院に「教育入院」しまして、これまでの「糖尿病食」とはまるっきり反対の「腎臓食」を栄養指導されて、塩分1日6グラム、カリウム制限（生野菜、果物は禁止、温野菜又は缶詰の果物のみ）、それに糖質（ご飯・パン・イモ類等）を多く摂れ、ということ、ほんとに面倉っている「腎臓食」です。

先生の診断ではいずれ「透析」は免れないでしょうが、その時期を本人の努力で延ばすことは可能であるので、日頃の食生活を心して励むように指示されています。

もう80歳を超えてのオノコの平均年齢まで何とか生きてこれましたので、今後は、いつも言っていますが、「余生の余生」という理解のもとに、自然体での生活にしたいと望んでいます。

糖尿病の指標であるグリコヘモグロビンの数値は現在、6.4%といわゆる正常値にごく近い（糖尿病でない方は6.3%以下9数値となっているのに、腎臓機能はクレアチンなどの値が、極端に悪化している現状です。

全く、困った老人です。

脊柱管狭窄症も何とか手術を受けて、少しは歩けるようになりましたので、過つてからのゴルフ、ヘラブナ釣りなどのアウトアの「遊び」や、「オペラの鑑賞講座」（鹿児島国際大学の生涯学習講座を今も自主講座として15年間、前期・後期とも各10駒（毎週90分授業）を受講しています。

これは常連のオペラ仲間が10名足らずの、先生の好意により長く続けられている「講座」です。

オペラの鑑賞はDVDによる、世界各地で上演されたオペラを大きな画面に写して先生の解説付きでの講義と鑑賞であり、どうしても大きな音響装置と画面が写せる装置、さらに暗幕が設置してある音楽教室が必要であります。同大学の音楽室の一般学生の授業のない時間帯を選んでの「自主授業」をお願いしている次第です。

このように長く生涯学習講座が続いているのも、担当教授の松原武実先生という素晴らしい先生のご尽力によるものです。今は、最近のウイルス騒動で、このところ、大学の授業も春休みに入っており、また4月から新しい学期が始まります。オペラももう有名な曲は3回以上も聴いていますが、その録画が屋外か室内か、さらに指揮者や演技者やプロデューサーなどが変わるので、まったく別なオペラと感ずる時もあります。

とに角、「キチガイ」の集まりであり、皆さんに話しても、ピンとご理解いただけない程です。

そのほかは、高校時代や大学同期会などのホーム・ページへの書き込み、毎月3～4回の自分のブログへの書き込み等で遊んでいる次第です。

家族はこちらでは、自分達の勝手な「希望」で帰郷しているだけに、息子・娘一家などは遠く関東などに住んでおり、時々には爺やや婆やの所に顔を見せてくれるだけであります。 自分らの意思での帰郷でありましたので、夫婦二人で何とか生活できる間は、子らの援助は期待しないことでのつつましい日常生活です。

最近では、ちょうど自分も通った故郷の永吉小学校創立150周年記念式も先だって記念式・祝賀会も田舎としては盛大に開催されましたが、その模様などを含めて、今、記念誌の最終の編集作業に当たっています。これもボランティア作業ですが、編集担当を引き受けた以上は何とか、出版まで注力しなくてはと励んでいるところです。

春温くなりましたので、へら君の住む山奥の湖からも彼らが待っていることでしょうかから、そのうち、何とかまた朝から車を走らせて、山桜が咲き始めた湖に行きたいと望んでいます。

家内とは中学時代の同期生同士の結婚であり、八十路に達しており、多くの医者通いの昨今であり、その往復の「アッシー君」としての「務め」もあり、自分の行動も制御されるほどでして、なかなか自由な「振る舞い」が出来かねます今日この頃です。

今回のウイルス性コロナ肺炎は大袈裟な学校休業という強力な施策で、沈静化になるのか、はなはだ疑問を持っています。

今のところ、鹿児島では一人の感染者も出ていない段階でのこの強力な措置は問題がありそうです。

お互いに、注意は怠りなく、この病が収まることを祈りましょう。

03月5日 大石

新しい無料のHPを作ってみようかと試作中です。今や貴重な薩摩歴史情報シリーズになってしまった『風土記シリーズ』ですね。じっくり読んで戦国（1530～）時代の薩摩大隅日向の三州に想いを馳せることにします。以下クリックして保存を・・・

<http://kjcfak.com/>

03月8日 中間

大石さん 早速のメール返信ありがとうございます。家久、豊久の足跡巡りが楽しみです。皆さんの賛同を得て、道中は私の車でご案内をと考えております。実行日程が決まりましたら、再度連絡を取り合います！ 中間

03月9日 風土記日置3

今や貴重な薩摩歴史情報シリーズになってしまった

『風土記シリーズ』ですね。じっくり読んで戦国（1530～）時代の薩摩大隅日向の三州に想いを馳せることにします。 大石



○今日も興味深い問題が取り上げられましたね。 クマモト

私は「一宇治城」については、2013年3月21日、「ヤジロウの墓(伝)」については2015年12月16日にそれぞれブログに取り上げています。

一宇治城には、ここに書いてあるように島津貴久が清水城(現在の鹿児島市の清水中学校)を薩州家(出水方面を本拠とした)の島津実久に追われて、ここ一宇治城に逃れたと思われます。ここに書いてある「国分の清水(きよみず)城とは違います。混同されないように申し添えます。

そして一宇治城の在城中にここにもあるように体制を整えたりしたものと思われます。満を持して内城(現在の大龍小学校)を築き、鹿児島市に帰ったのです。

島津本宗家の第14代島津勝久の跡を争った島津忠良(日新公)・貴久(後の第十五代藩主)親子対、島津実久の争いが決着したのですが、本宗家の島津勝久の地位を奪ったことに対して最近ではクーデターであったと、言い方が鹿児島でも公認されつつあるとのことを聞きました。島津家もそういう考え方を許しつつあるようです。

その後の島津家は第十六代義久、第十七代義弘と継ぎ、その息子・忠恒(後の第十八代の家久)が初代薩摩藩主となって薩摩に揺るぎない地位を築いていったものと思われます。

添付の写真は伊集院の一宇治城の入口と、現在も妙円寺詣りで歩く「薩摩街道出水筋」の伊集院寄りにある「ヤジロウの墓」と言われているものです。

隈元 達雄



○一宇治城 <https://plaza.rakuten.co.jp/kumatake123/diary/20130321>

ヤジロウ墓 <https://plaza.rakuten.co.jp/kumatake123/diary/20151216>

大石より

上のアドレスをクリックすると、隈元くんのブログから解説が見ることが出来ます。

○これからは手抜きをせずにこれでいきましょう。

4月5日は近所のどんぐりの会(老人会)の花見です。

また4月から会長をしなくてはならなくなりました。そのため、6日かその他の日程だと助かります。

そのときは、森くん宅に行きたいとおもいます。よろしくお願いします。

クマモト

○森です。

こちらコロナのおかげで2月29日の国際大学混声合唱団の定演は無観客演奏会となりました。また老人クラブ(長田町桜会)の懇親会を17日ホテル福丸で予約していましたが、取り止めになりました。ホテルも送別会

や同窓会等のキャンセルが多くて困っているそうです。早く終息しないと世間が沈滞してしまっていていやですね。気晴らしに和枝宅での昼食会の件4月初めに拙宅集合でOKです。

○森くん

国際大学の演奏会は無観客でしたか。

一年の練習がファイになって、団員の皆さんはさぞがっかりされたことでしょう。

又、町内会会長?たいへんですね。

頼られることを生きがいに变えて70%でがんばってください。 大石

○大石くん

今度は町内会長ではありません。

どんぐりの会の会長です。

これももう何回か経験しましたが、会員が健康を害したり、認知症になったりで、会長をできる人間が3人になりましたので、止むを得ません。もう町内会長は金輪際やりません。(笑)

○大石くん

配信ありがとう。

シリーズを21号から23号まで夢中で読んだところですよ。

もう、昔の事のように、ああいうことを書いたなあ！ とか懐かしく読んでいます。

読み返してみると、当時思っていたことでなし得ていないこともいくつか出てきました。

まだまだ、読んだり、訪ねたりする場所など多そうです。

それにしても春の気まぐれ天気には振り回されますね。

もっとも新型コロナ騒ぎで街に出ることも控えているし、特別困ることもありませんが、グラウンドゴルフの練習日になると雨、雨、雨です。明日は久しぶりに出来るかな。

クマモト タツオ

2020年3月10日(火) 15:44

大石さん

本当にありがとうございます。

書いたものしか残りません。

書いたものを整理しまとめの労をとってくれたものを整理保存してくれた人がいたから、古来、洋の東西を問わず、書き物を保存し残すということは国家的な事業して行われています。

日露戦争でまけたロシアには、詳細は記録があったそうですが、日本には軍の配置図しかなかったというようなことを司馬遼太郎は書いています。

米国では、例えば連保政府の官僚（国家公務員）が書いたものなら電話で話しながらメモしたものでも国有財産だそうです。国有財産を勝手に処分することは許されません。

日本で役所のパソコンの中でも私的な文書だから公に出すことを請求できないということがありました。役所または会社のパソコンに私的なことを書き込むと膨大な投資が行われた役所または会社のシステムの私的流用で罪に問われることがあります。

話が逸れましたが、記録を残すということは極めて有意義かつ重要なことです。

大石さん 本当にありがとうございます。

西山 和宏

○大石くんへ

久し振りにメールします。お二人共に、お元気の事でしょう。

さて、細かい事が、大変にがてになり、タブレットからも遠ざかっていましたが、思い直してグランドゴルフや車運転をするよう心掛けています。中国の日記を読み返して気分爽快になりました。貴君のお陰であったと思い、感謝しています。

大分市 竹下嘉郎

○田嶋蓮長知りませんか 大石

○知りませんねえ。

薩摩川内市の高城には知り合いで出身の方がおられました、一昨年亡くなりました。

下大迫三徳さんという方でしたが、そのお兄さんは川内市の時代に市議会議長もされた方ようです。県議で団長の藤崎 剛さんのコネでたどり着けないようだ、その田嶋 蓮長さんにたどり着くのは難しいかな？ クマモト

○3月16日

随分と立派な墓ですね

幾百年の風雪に耐えて文字も綺麗に残っているかなり財力のある一家一族のようでもあります丸に十の字の轡が家紋ということから察して、歴代の武士というよりも、多額の上納によって名字帯刀ということではないでしょうか？

江戸本郷に、江戸時代から続く高崎屋という酒屋があります。江戸時代は大変な豪商でした。

幕末に強盗が押し入り一家7人皆殺しにあったそうです

西山 和宏

○「明日、仏さまにいやとごわんど」2回に分けてお送りします。

と思いましたが、容量オーバーで3回に分けることになりました。

一気に読めると思います西山 和宏

○西山さんこんにちは

「明日、仏さまにいやとごわんど」一気に読ませていただきました。

少年航空隊 旧知覧基地 記念館を見学したことがあります。万世飛行基地の話は知りませんでした。5月に帰郷予定ありますので 行ってみたいと思います。

題名からして、鹿児島弁 懐かしく 飛びつき 読んだ次第です。

私も 父を 太平洋戦争で 亡くしておりますので 戦時中の話は 身に沁みます。

ほろりとしながら 読みました。

戦後 日本は 戦時中の記録は 敗戦後 全て 焼いてしまったようです。

貴重な 敗戦記録は ほとんど 残っていないようです。(日本では ほとんど 見る事が出来ないそうです。)

最近になり 関西学院卒業後ワシントン大学大学院に学び、スタンフォード大学 フーヴァー研究所で長年 研究された 西 鋭夫(ニシ トシオ)という方が USAの図書館の日本戦時中の記録を調べられ、出版されて おられます。

また、山下 レイ子さんが 県立短大家政科 出身 という事にも 身近に 感じました。

家政科は よくできる女性多く 玉龍八期会の中でも ここで 学んだ方が 数名おられます。

旧姓 中村 瑞代さん(平田)、 牧(平敷) 由起子さんが卒業されておられます。

文藝春秋 4月号 昨日の夕方 買ったところで まだ、読んでいないところで メールいただいた ところでした。ありがとうございました。木場 祥雄

○明日は特攻に行く者を殴るが印象的でした。

私は、小学校2年3年のときよく兵隊帰りの先生にほほに手型がつくほど殴られ、水道に行って冷やして来いと言われました。 西山 和宏

○3月16日 永野和枝

万世特攻平和記念館に 万世基地から飛んだ 特攻隊 が 祭られている 記念館を訪ねたことがあります…知覧基地からの特攻隊の話は 富屋食堂の特攻おばさん(鳥浜トメ)さんのお話は有名な お話ですが万世の方は何故か初めて 知りました🤔 軍の方針だったんですね？

永野の実家は 加世田の万世 父が私に伝えた意味がわかりました…

子供…孫達に 万世特攻基地があったこと 語り伝えてと言ったこと 現在 26 才の孫…小学校5年のとき 娘から 聖也の平和教育で 戦争のお話レポート書いてくるように？ 戦争の体験者でないからお母さん教えて……満洲から 引

揚げ船  で日本に帰って来たこと…伝えたことができました。

私達のじだいまでは 戦争体験しています。段々 風化されていくのでしょうか🤔

明日(仏様に ないやと ごあんど)

心の奥に 突き刺さります…我が孫は 24 才です。まごたちだと思おうと 涙が止まりません。

○貴重なお話 ありがとうございます。

「明日、仏さまにないやとごわんど」その時間には、仏さまになっているのでおにぎりは無用とのこと 一気に語れない、涙なくしては聞けない可哀そうな話です。

私は、今も何かあると、このようなことが継続していると感じています。西山 和宏

○竹下嘉郎より

う。懐かしく感じました。ありがとう。

パソコンの中のすごい量の貴重なデータを蓄積しているのに敬服した。活字記録して、公の場所でも保管した写真は、ありがとう。何処で撮影されたのか？今夜になって思い当たりました。東市来町のキャンプ地でしょうかいい。いつまでも元気ではおれないのだから。と感じました。

○大石より 3月20日(春分の日)

暖かい春の旗日。昼下がりのテレビ映画いかがですか？中国の山田洋次？主役はデビュー早々のジャンツィーイ『初恋のきた道』名画だと思います。

BS プレミアム 1 時から？

○春の陽気に誘われて花見ならぬ我が家の狭い雑草園の草取りをしていました。

昨年秋に毎日のように1時間くらいずつ草取りをしたおかげで、大きな草はなく、助かっています。

それでも、しばらくはやらないと春の新芽で草ボウボウになりそうなので、気を抜かずにしばらく長靴でがんばろうとおもっています。

原発問題は厄介ですね。

利害がこれだけ絡めば一刀両断にもできませんが、人類のためにいずれは解決しなくてはならない問題だと思います。 隈元

○お金は欲しいが、命も惜しいその選択を迫られてもどちらがどの程度かが選択の分かれ道になる
権力者は目的達成のためにその迷い弱みを衝いてくる
権力を支えているのは暴力であると藤原弘達は言っていた
弱者は迷い屈服落胆し、諦めるしかない
でも、少しは抵抗してみたい。 西山 和宏

○竹下君への返信 3・20

届いてますよ。

今日は暖かい祭日ですね。郡元と草牟田のお墓参りでした。

最近大分方面の「…歩き」のテレビ番組多いです。貴方の顔が浮かんできます。 大石

○ありがとうございます。

新型コロナのニュースはテレビ・新聞・ネットで見ていますが、PCR 検査についても「もっとやれ」と「あまり検査しなくてよい」派がそれぞれ主張しあっているのが頭がこんがらかってきそうです。ただ、毎日の感染者数を見ていると、ほとんど40~50人で推移しているので、増えないけれど少なくともならないし不思議な気がします。いわゆる「持ちこたえている」という状態なのでしょうが、これで治まるようなような気もするし、いつか爆発的に増えそうな気もするし、落ち着きませんね。

そういう中で、娘家族と26日から2泊3日で長崎方面に孫の卒業旅行に行くようにしています。

私たちは「夏休みまで延期したら」というのですが、呑気な娘一家は今のところ強行するようで、そうであれば私たちもついていくしかないかなと思って心は揺れています。(笑)

まあ、なるようになるでしょう。旅程の一部変更もあるかもわかりません。

隈元

○○昨日の夕刊の「あすの話題」に記のようなことが書かれていました。 3月22日10時
決して、自分はそうではないと思いながらお読みください 西山

………美人という不幸

作家 嵐山光三郎

2020/3/21 日本経済新聞 電子版

美人はなぜつまらない男と結婚するのか。「それは賢い男が美人を敬遠するからだ」と言ったのは小説家モームである。これは「美人と結婚できなかった男のねたみ」、あるいは「できの悪い男が自分の無能を美人妻のせいにした」のである。美人に生まれるのは必ずしも幸せとは限らない。

ちやほやされて育つので、そのぶん足をひっぱられる。美人で頭がいい、つまり才色兼備となると、周囲の期待も大きくなり、「どんな人と結婚するのか楽しみね」といわれて育ち、この「楽しみ」には当然ながら、「期待はずれ」が入っている。当人のプレッシャーが高まり、ヤケのヤンパチでどうでもいい男と結婚して不満な生涯をおくる。あるいは男の品定めをしすぎて離婚をくりかえし、結婚詐欺(さぎ)にあう。

「美人薄命」という言葉には「薄命であってこそ美人」という期待感があり、「美人長命」では世間が納得しない。才色兼備というのも見ためほど楽でないようだ。女子のあいだでは「一番好きだった

人ではなく、2番目に好きな人と結婚するのがコツ」という格言があるらしい。とすると、還暦をすぎた夫が妻にむかって「一番好きな相手はだれだったのか」と詰問して「あんたバカだと思ってたけど、やっぱりバカね。あんたは13番めよ」と笑われる。

美少女であったアイドルも、還暦をすぎると人並みに老いる。女性の容姿ほどはかないものはない。アメリカの女優エリザベス・テイラーがそうだった。18歳で結婚して、8回の結婚をくりかえし、晩年はまったく別人のような顔になった。「美しく老いる」ことはとても難しい。 西山 和宏

○……とは言っても若い頃(期間はそれぞれだけど)に美人と言われていた女性はそうでない人より幸せだと思います。男性からみて好きかそうでないかは別ですが。本人の気持ちはわからないけど。

でも、歳を取ると不思議なことに美人でなかった女性の方が昔(若い頃)と変わっていない人が多いのでは。一方美人だった人の方が落差が大きい気がする。本人の気持ちはわからないけど。 大石

○光三郎は「あんたバカだと思ってたけど、やっぱりバカね。あんたは13番めよ」と笑われる。13番目、だからトースンと呼ぶのよと書きたくてこの戯文を草したのかもしれない 西山 和宏

○ホント? 父さんだね。さすが西山くん♡ 大石

○大石様 西山様 いつも配信 感謝です。美人との付き合い 肩が凝りそう^^

長崎 森永

○「美人という不幸」 なかなか含蓄のある文章ですね。自分の来し方のことを振り返りながら興味深く読んでいろいろ考えました。

若い頃はやはり「美しい人」(スタイル美人も含めて)に目が向いたものですが、一方で自分独特の感性でそうでない女性に魅力を感じたこともありました。ただし私が魅力を感じたそれらの女性を他の野郎どもはどう考えていたのかはわかりません。

ただ、この歳になると女性を見る目も変わってきました。

ますます「美しさ」がその主たるものではなく、人柄(昔も美しいと思った人には、人柄の良さも備わっていると勝手に思い込んでいた節はあります)が第一になってきました。人生80年生きて来たせいでしょうか。今、周囲には魅力を感じる女性が多くなった気がします。 隈元

○性格美人とでも言える人が、自分にとっては良い人と思いたげないものねだりかもしれないし、贅沢な望みかもしれない源氏物語「雨夜の品定め」の中で上品ぶった女性よりも中品あたりに個性的で良い人が少なくないと集まった男どもの意見は一致しました。

妻に相応しい結論として浮気をしない女性、夫が浮気をしても嫉妬しないの2つが挙げられました。西山 和宏

○性格美人、魅力を感じる女性、人柄ファーストの女性…歳と共に女性への見方も変わってくる。そういう結論になるのかなあ。

どうしても不思議なことがあります。

大学時代にクラスが3つあって各クラスにマドンナ(高校時代と同じ)がいました。違うのは高校時代は行動を伴わないプラトニック(片想い)でしたが、大学時代は付き合い自由でした。

当然マドンナクラスは引くてあまたでしたが、なぜかマドンナたちはずーっと独身でした。今も東京に行くと独身マドンナの数人と、そうでなかった…夫人たちと一緒に集まったり小旅行したりします。

でも「どうして結婚しなかったの？」だけは突っ込んで訊けないでいます。

「美人、もてすぎ」と結婚しなかったのとの因果関係があったのか? 解けません。 大石

○今でもそんなマドンナと交流があるとは尊敬します。

「どうして結婚しなかったの？」だけは突っ込んで訊けないような雰囲気的女性だから結婚できなかったのでしょうか「美人、もてすぎ」でない女性は意外と多いかもしれません。だから変な奴がからかい半分に声をかけると

簡単について行くのかもしれない

西山

○美人には声をかけにくかったと思います。特に若くて純情だった頃には。もし振られたらという防衛本能が働きますからね。

だから案外美人は私たちが思うほど声をかけられることもなく、縁遠かったのかもわかりませんね。

いやいや、女性のことは、永遠の謎です。

隈元

○今現在、じっと耐えて耐えて、修行中です。 西山 和宏

○今思えばもったいないことでしたね。

大石

○ひょうっとしたら 意気地なしといわれるだけであったかもそれが男でしょう？ にしやま

○そう言えば私も当時は「やっせんぼ」でした。

友達にもそういう連中は多く、片思いの彼女への想いを伝えてくれるように頼まれたことが、何回かありました。もっとも、そういう時も自分も「びびって」しまってキューピットの役目を果たすことはできませんでした。人のことなのに伝えることも出来ない本当の「やっせんぼ」でした。 隈元

○3月24日 西山くんから永野さんへ。

大石くん経由でメールを拝見しました。ありがとうございます。

悲惨なことはあるものですその多くは年月とともに忘れ去られてしまいます。

しかし、何かの拍子に思い出され語り継がれたりするものです悲しがつたり悔しがつたり悲憤慷慨してもしょうがありませんがそれしかできないことはあります。

硫黄島でも偉い人から順に「後はよろしく頼む」と言って飛行機で本土に向かいました。

大空の侍、坂井三郎は最後の飛行機で偉いさんが乗った飛行機を操縦して本土に帰りました。

こんな話はたくさんあります。

聞くたびに、読むたびに、何も変わっていないと勝手に嘆いています。

今回のオリンピック延期も人命に関わることはありませんが、犠牲になるのは偉いさんではなく末端の人々です。

尊い犠牲のお陰で、日本は戦後長年にわたって平和に暮らすことができました。

戦後の日本が、密かに尊敬され恐れられてきたのは特攻隊という想像を絶する犠牲のお陰です
可哀そうと思いつつ感謝もしております。

せっかく今まで生きてこれたのですから長生きをしましょう！
西山 和宏

○西郷ものは「島流しもので対談者島尾敏雄」おもしろそうです。画集が又掘り出し物ずっしり。関ヶ原島津はもう少し史実に乗って調べたかったので。

もし興味があったら、もちろん見終わったらお貸しします。丸善書店で購入しました。

○お知らせありがとうございます。

面白そうな本ですね当に本好き、よいことです。 西山 和宏

○ありがとうございます。

終わったら読ませてください。

明日から長崎、阿蘇に行ってきます。



ドライブだから大丈夫でしょう。人にできるだけ接しないようにします。

隈元

○いい旅愉しんでいらっしやい♡

大石

○3月26日

あの岡田さんが10年前に今日のことを小説として書いていたとはエボラ出血熱のことは、トム・クランシーが小説に書いていたそのとき患者を運んだのがボンバルディ社のプライベート・ジェットであった。

今回のコロナ騒動でボンバルディがイタリアの地名であることを知った。

世の中で起こることは、すでに小説にかれているのかもしれない。

先進諸国では、パンデミック宣言には軍隊の出動が伴うものであるらしい。

さて、日本はどうなるのでしょうか？

<https://www.gentosha.jp/article/15145/>

○大石です。

いい勉強になりました。あの岡田さん（コロナ女史）が予言していましたか。最近少々うんざり気味でしたが又耳を傾けて予言者の声を聞くことにします。テレ朝モーニングショーのもう一人のレギュラー大谷スキンヘッド👨🏻🩺ドクターはどうしたんでしょうね。まさか陽性になったとか？嫌がらせ行為に遭ってるとか？

○米国では多くの都市で、警察がいわゆる110番に応じたの出動を差し控えることになりました。

警官への感染を警戒のためです。西山 和宏

○以下…小説の一部を抜粋して掲載します・・・大石

一実は現在の我々もほとんど知らないことだが、90年前のスペイン風邪の流行時にも、これと同じ現象が起っていたのだ。次々と人々が亡くなり、関東大震災の4倍以上、およそ45万人が亡くなったと推計されている。

そのため当時は、大阪駅、上野駅に棺桶が積み重なって置かれたと、ものの本に書かれている。市内の火葬場がいっぱいだったため、家族が地方の焼き場に持って行って焼こうとした遺体が次々と運ばれ山積みになったのだ。人々は、時間の経過とともに傷んでいく最愛の人の遺体をどうすればいいか途方にくれながら右往左往していたのだ。

そんな過去の悲惨な経験と同じようなことが現代の日本でも、繰り返されようとしていた。

自治体は、最後の決断を下す。密閉式の納体袋に名前のプレートを付け、大きな穴、深淵のような穴に集団埋葬をすることを決めたのだ。だが、疲弊した自治体にはこの作業を行うだけの余力は全くなかった。自治体から防衛省に、この過酷な作業を遂行してほしいとの依頼が次々と舞い込んだ。

東京都でも、ほとんどの都立公園で集団埋葬が始まった。それは歴史にあるペスト流行時の埋葬風景と酷似していた。

遺体安置所では、自衛隊員が2人1組になって、次々と遺体を納体袋に密閉していく作業が始まった。流行がその激烈さを増した頃、あまりに夥しい数の死者が出たために棺桶は品薄になって、入手できない状況になっていたのだ。スペイン風邪の時にも、棺桶の入手できなかった人々は、茶箱などの代用品を使ったことが記録されている。袋に入った遺体を次のグループが入り口近くの置場に運び、次のグループがその先まで運んで、そしてトラックに乗せる。それは、深い共同墓穴へと運び込まれる。

犠牲者は、赤ん坊もいれば、幼児、小中学生から、青年層、壮年層まで、すべての世代にわたっている。自分たちと同じ、20代や30代の遺体も目立って多い。生きていた人が、今、こうやって梱包されて積まれて行

く。自衛隊員の中には、犠牲者に自分の周囲の同じ年頃の父母や兄弟、子供などの家族の誰彼が連鎖的に浮かんで、やりきれない思いに苛まれる者も多い。いくら日頃から訓練を積み、国民のために働く強靱な魂を養っていても、この悲壮な作業にあたった多くの隊員の精神を崩し、トラウマとなって爪痕(つめあと)を残して行く。こうして運び込まれた遺体は、整然と積み重ねられて“埋葬”されていったのだ。

多くの叫びの中で、数百の遺体が同じ穴に積み重なっていく……。

パリの中心部の地下には、今も 600 万体のシャレコウベが積み上がっている。カタコンブと言われるその場所は、地下鉄に隣接して、その入り口がある。パリの市中、さまざまな有名な通りの下、迷路のような地下道に夥しい数の人骨が、積み上げられては時を刻んでいることを多くの日本人は知らないだろう。これらの死因は同定できないにせよ、そのほとんどがペストを中心とする疫病の流行による犠牲者であることは、歴史的には明白だ。疫病の流行時、ヨーロッパでは死体がラザニアのように積まれたと表現される。このカタコンブでも人骨が、ラザニアのように壁を造って人間の背丈以上に積まれている。ヨーロッパでの疫病の記憶とはこのようなものだ。この疫病の恐怖の記憶は、日本には残っていない。*

家にもった人々も既に 1 ヶ月を経過して、備蓄した食糧もなくなり始めていた。十分な準備を行っていたはずの家庭でも、新たな食料品の入手が多くの店舗閉鎖で極めて困難になっているため、籠城生活はそろそろ限界に近付いていた。

食糧や生活必需品の役所への問い合わせも続いている。日常必需品の不足はますます深刻化し、それにつれて治安も不安定になってくる。物置にしまっておいた食糧備蓄品が盗まれた、閉めている店舗のシャッターがこじ開けられて荒らされたなどの事件も頻発し、警察の警備強化が求められたが、警察官の 3 分の 1 も病欠しているありさまではいかんともしがたい。商店街では夜回りの警戒も検討されたが、感染とトラブルに巻き込まれることをおそれる店主たちの誰かが積極的に動こうとはせず、結局小さな空き巣や泥棒は手をこまねいて見ているしかなかった。

ガソリンの供給は一般のガソリンスタンドでは、既に全く不可能となっていた。流行の初期から、公共交通機関での感染の危険性が指摘された段階で、ひとまず安全な移動手段のためにと自家用車、業務用車を問わずとにかく自分の車のための燃料を確保しようと人々がガソリンスタンドに殺到し、あっという間にガソリンは売り切れてしまったのだ。その後一時はガソリン供給が回復したように見えたが、世界的な流行の拡大とともに石油原産国での生産量と輸出量も激減している。輸入がストップしただけでなく、供給する石油会社の業務縮小や、運搬するトラック運転手などの病欠による物流の停滞などで、新たなガソリンがガソリンスタンドに供給されなくなってしまったのだ。

クウェートを石油満載で出航していたタンカーが、出航時に既にウイルスがしのび込んでいたのか、船長はじめ乗組員が次々に新型インフルエンザに倒れ、インド洋沖で漂流しているというニュースが、ガソリン供給が途絶えている象徴的出来事として、ネット上に流れていた。

ガソリンの不足は、それまでは最低限の範囲ではあっても、車を利用して移動を可能にしていた地域の住民の足そのものに影響し始めていた。それに加えて、政府は石油の配分を厳しく制限したのだ。

街の中では、病院に行こうとして力尽きてうずくまる道路沿いの病人、行き倒れた人々への救護も、一般の人々はもちろんのこと、もう警察も保健所も手が出ない状態となった。家の中でひっそりと亡くなった人にも、まだ手が差し伸べられていない。多くの街が街としてのみならず、社会としても機能を失っていた。

○米国では多くの都市で、警察がいわゆる 110 番に応じての出動を差し控えることになりました。警官への感染を警戒のためです。西山 和宏

○大石様 西山様

いつも配信ありがとうございます。

コロナ騒動 新しい形の世界戦争ですね。

こんな最中ミサイルをぶっ放す隣国 元気があると言うべきか？

こちら ここ2・3日の暖かい雨で 一足飛びで新緑の季節へ移りつつあります。

長崎 諫早 森永

○貴方の メールを見ましたよ 何の事ですか コロナ コロナで参ってまーす 静かにしてます 以前通っていた 踊りの会が 4月5日 日曜日あるのに 江戸川までも行けず アンマリ辛いので 昨日は 花見に 遠出して来ました桜と言えば 江戸川の桜も咲いてるのに 行けません 何で こんな 世の中になったのか 呆気ないものですね

追伸

確かに 昔の 鹿児島駅は寂しい 子供の頃の 西駅ばかり 中央駅とかになって みんな持って行かれたみたい ◆ 大きな サッカー場 出来たら 見届けるだけじゃあなくて サッカー したらどうですか 8期生 集めて マイナス 50 位になりたいですね(^-^)/∠※。.:*:・°☆ 3月27日 江戸川より

○市電に限なく走り回る都市は高齢者と身障者にとって優しい街です。

市電に停留所から離れたところにはバスを走らせてパリの高齢住人は地下鉄よりもバスや市電を利用しています 西山 和宏

○メール3通受信しました。ありがとう。

昔の人の「道中日記」は特に面白いですね。

森くん宅に残された日記や、島津家久公の「中書家久公御上京日記」などもそうですが、この道中記も少しだけ読んだだけでもそのリアルな動きが伝わってきて面白いです。人名も是枝や中原、有馬など鹿児島独自のものなど多く、また下人には姓がなかったことなどが分かり面白いです。

先日より3年越しに痛かった奥歯を小森歯科で抜いてもらって、今日は2回目でした。親父さんも元気とのこと。

隈元

○